



認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

〒151-0071 東京都渋谷区本町3-48-21-303  
TEL:03-3372-9777 FAX:03-5351-2395  
E-mail:info@baj-npo.org

郵便振替口座 00130-1-739924 口座名 ブリッジエーシアジャパン



[www.baj-npo.org](http://www.baj-npo.org)

BAJで検索! ▼

BAJ 🔍



認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

# 年次報告書

2020年1月1日~12月31日

## 2020年度



in Myanmar  
ミャンマー事業

整備した基礎インフラ

基礎インフラ建設  
(道路・桟橋・貯水池・排水路など)  
MGD, STW, SE

115件

新規井戸掘削建設  
CDZ, SE, MGD

537本

井戸・給水設備修繕  
CDZ, MGD

469か所

建設・修繕した学校校舎

325校

図書とおもちゃをセットした棚寄贈

116校

ひ益する子ども:25,157名

移動型おもちゃの広場開催

3回

参加者:2,800名

実施した技術・技能研修

保守・設備研修  
MGD

実施回数  
165回

参加者数  
1,187名

女性支援事業(裁縫・識字・母子健康保険等)  
MGD

事業開催数  
228回

参加者数  
6,000名以上

PTA強化研修  
MGD, STW

開催校数  
119校

参加者数  
250名

教育環境の支援

YGN, CDZ, AYWD, HPN, STW

防災林教育研修実施

実施回数  
252回

参加者数  
7,775名

学校教材林植樹数

5か村

51,690本

技術訓練学校卒業生  
STW, HPN

自動車整備科  
447名

建設科  
206名

電気工事科  
347名

溶接科  
302名

その他  
87名

車両・エンジンなど修理  
MGD, STW

5,801件

生活改善事業

HUE, HCM

貧困農家経営の支援

HUE, HCM

BD設置農家件数

95基

直売所出荷農家数

延べ60世帯以上

2号店売上げ金額(1月～12月)

2,244,752,280VND

マイクロクレジット貸出件数累積(2003～2010年)

221件

貸出総金額

112,458,000VND

フエ市浸水被害  
緊急支援

(2020年11月～2021年2月)

支援農家

180世帯

支援学校

3校

in Vietnam

ベトナム事業

子どもの支援

HUE, HCM

補習・奨学金・生活支援

1,312名

障がい児者支援

206名

環境改善

HUE, HCM

ゴミ分別活動参加者(2001年～2011年)

3,440名以上

有価物売却益

14,287,900VND

環境学習・実践参加者

4,583名

ごあいさつ

2020年度の事業報告書をお届けします。

2019年度末あたりから、中国武漢で新型コロナウイルス(COVID-19)が発現し、パンデミックとなるのに時間はかかりませんでした。日本では4月7日に7都市に、さらに16日には全国を対象に緊急事態宣言が発出されました。同時に「3密」を避けるため、リモートワークや飲食店の時短が推奨され、町の様相は一変しました。

海外事務所の対応は次のようでした。

ベトナムでは、2003年に流行した「SARS」の経験を活かし、COVID-19に対しても素早い対応で拡大の抑制に成功しています。BAJベトナム・フエ事務所では、日本人駐在員のいない状況下、現地職員の活躍は頼もしく、彼らからの提案もしばしば出て結果を出すまでに至っています。しかし10月に複数の台風がベトナム中部に襲来し、フエ市は数十年に1度という浸水被害に見舞われ、家屋や田畑の被害に加え、多くの死者および行方不明者を出しました。BAJはフエ市行政からの要請を受け、緊急救援募金を開始して農家の支援を進めました。皆様からの寄付にくわえ、ベトナムから来日した技能実習生グループからの寄付や、その受け入れ企業など、皆さまから多額のご支援をいただき、BAJは農家を中心に支援金を配布して復興を進めました。あらためてご支援をいただいた皆様に御礼を申し上げます。

さてミャンマーの状況ですが、ラカイン州では独立を標榜する「アラカンアーマー」を名乗る武装勢力の襲撃が激化し、

校舎建設予定地校の変更や中止など、進捗状況の遅滞を招く結果となりました。またCOVID-19の出現により、医療体制が十分とは言えない状況下、活動現場では手洗いやマスクはもちろん、3密を避けながら事業を進めることになりました。しかしこの時点では、2021年2月の国軍によるクーデターを予測することはできませんでした。

2021年4月現在、国軍による市民の抗議デモに対する制圧は激化しており、また武装化した少数民族に対する空爆など事態は激しさを増しており、終結は全く予想がつかない状況です。BAJでは現地職員と頻りに連絡を取りながら、シトウェやマウンドー事務所、さらにヤンゴン事務所を閉じ、自宅待機によるオンラインで活動を進めています。

BAJ東京では、COVID-19に対応して、職員について時短や出勤日の抑制などを実施し、オンラインで事業を進めています。イベントや報告会の実施が不可能となり、理事会や総会、報告会はオンラインで進めました。スタディーツアーや古着回収イベントなどの中止はやむを得ませんが、SNSを活用した広報などに力を注ぎました。BAJは引き続きミャンマーでの事業を進めていきます。皆様のご支援をお願い申し上げます。



認定特定非営利活動法人  
ブリッジ エーシア ジャパン

代表 根本 悦子

BAJの4つの使命

The Four Commitments of BAJ

1	2	3	4
<p>技術習得や 能力強化の 機会を提供します</p>	<p>収入向上を 支援します</p>	<p>地域発展 のための 環境基盤の 整備を進めます</p>	<p>環境を守り 啓発活動を 進めます</p>



## 海外支援活動 ミャンマーでの活動

ミャンマーは宗主国イギリスから独立以来、135に及ぶ国内の民族間対立が課題となっていました。とくに民主化以降、独立を求めて武装化するグループと国軍との衝突が相次ぐなか、1992年に北西部ラカイン州で起きたムスリム系住民約23万人が難民となってバングラデシュに流出する事態となりました。国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）により難民の帰還作業が開始され、1995年にBAJはUNHCRの要請を受け、マウンドーで開始された難民帰還事業の事業実施団体（IP）として、マウンドーでの帰還事業に参加し、帰還民や地元住民を対象に技術訓練やインフラ整備を進めてきました。

民主化後、散発的な民族間の衝突を経て2017年、ムスリム系武装勢力による大規模な警察襲撃事件が起き、国軍による掃討作戦の結果、70万人に上る大量のムスリム系難民が発生し、国際社会注視のもと早期帰還への取り組みが開始されましたが、難民帰還は進んでいません。

その状況下、アラカンアーミーを名乗るラカイン族の反政府武装勢力による襲撃事件が起き、国軍との紛争激化による新たな火種が生まれ、この地域に複雑で深刻な治安悪化が生じています。国内避難民が増えるなか、BAJは2018年末にUNHCRとUNDP、ミャンマー政府の3者で取り交わした覚書による事業実施団体（IP）として、UNHCRが実施する支援ニーズ即応事業について契約を締結しました。

2020年も同事業を実施してきましたが、3月中旬から新型コロナウイルスが社会に大きな影響を与えるようになりまし

た。入国者、帰国者に対する自主隔離が始まり、同月23日初の感染者が確認されて以降、一挙に自粛ムードが広がり、規制も強化されました。各現場では、感染予防対策を実施しながら、活動継続を模索しました。

8月からBAJが活動を実施するラカイン州やヤンゴンでも新型コロナウイルスの影響が大きくなり、活動が著しく制限されました。ラカイン州では8月下旬に感染者が拡大し、21日には州政府の通達により、ラカイン州のほぼすべての支援許可が取り消され、多くの団体が食料配布や保健・医療など緊急性の高い事業を除き、活動の中断を余儀なくされました。BAJではラカイン州北部の車両整備事業を除き、他のすべての事業（支援ニーズ即応事業および学校建設事業）を8月以降中断しました。

州政府の活動許可が下りるようになり、ようやく12月から主要な事業は再開しましたが、村落住民と直接関わるような防災研修、PTAワークショップ等の研修事業については引き続き活動実施の許可が下りていません。

## 1 ラカイン州の活動

治安の安定しない地域にあって、さらに新型コロナウイルスの影響を受け、車両など機械類の整備事業を除き、8月から全事業を一時中断しました。12月から、中断していた活動のうち建設事業の再開許可が下り、できる場所から進めました。治安と新型コロナウイルスの影響により当初の計画変更や活動の中止など状況に対応しながら可能な限り事業を継続しています。

### ① 車両など機械類の整備事業・その他

資金：UNHCR

#### ラカイン州北部地域で活動する団体や組織の活動支援

この地域で活動する国連や国際NGO、ミャンマー政府機関などの移動手段である車両や船外機、発電機などの保守整備は、活動を円滑に進めるために欠かせません。BAJのワークショップではこうした機械類の修理をおこない、また粗悪な燃料のろ過サービスを継続実施しました。1～12月の修理・保守活動は計787件、燃料ろ過は28,362ガロン（約12.89 kℓ）となりました。

コロナ禍で国連や国際NGOの活動も必要最小限に制限されるなか、車両などを整備することを通して他団体の活動継続に貢献しました。



マウンドー事務所内の自動車整備ワークショップ



メカニックチームが車両をメンテナンス



メカニックのリーダー

### ② 支援ニーズ即応事業

資金：UNHCR

#### 避難民帰還のための環境整備

BAJはバングラデシュからの難民帰還と再定住に向け、生活環境の改善を目的とした支援ニーズ即応事業を進めてきました。ラカイン州北部の13村で給水設備の改修、学校の修繕、排水設備の整備、村への連絡道路の建設など15の小規模インフラ整備活動を実施しました。新型コロナウイルスの影響を受け、8月から11月まで建設を中止しなければなりませんでした。12月末までに10件の建設が完了し、5件が建設を継続中です。小規模インフラ建設の際には、国連の「キャッシュ・フォー・ワーク」の仕組みを取り入れ、就労機会のない村人に事業参加してもらいました。



手洗い消毒などを建設現場で指導



ブティン郡市場に設置した給水タンク



ブティン郡の僧院で掘削した水源



③教育支援事業

資金：日本財団

安心して学べる環境を

2013年9月より開始した学校校舎建設事業は、5年で100校の建設を完了し、2017年9月より第2期として5年間で学校校舎80校の校舎建設と、新たにPTA強化支援研修、さらに防災研修および教育環境整備として教材林の植林と環境教育などを組み込みました。建設現場では監督と左官・大工の熟練労働者が、村から選抜された約10名の若者を対象にOJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)による技術指導を実施して学校建設を進めます。一定の出席率と技術を習得したOJT参加者には修了証書を発行し、就労機会へとつなげています。新型コロナウイルスの影響を受けるなか、可能な限り事業を継続しました。

1 学校建設事業

第2期3年次(2019年9月～2020年8月)は16校の建設完了を2020年8月までに予定していましたが、新型コロナの感染拡大による活動制限のため、8月以降事業が実施できず、12月に建設を再開しました。12月末までに8校舎が完成し、残りの8校舎も事業を延長して2021年4月までの完成を目指しています。

各現場では、監督と左官、大工などの熟練労働者が、村から選抜された約10名の若者を対象にOJTにより建設を進め、一定の出席率と技術を取得したOJT参加者には、修了証書を発行しました。しかし、感染拡大後の8月以降は感染予防の観点からOJT活動の許可が下りず、実施できませんでした。



校舎前で遊ぶ子どもたち(コロナ流行前の撮影)



OJTには村の女性たちも参加しました



OJTメンバーにコロナ感染予防のレクチャー



ウインピン村



ニャウンゴン村



ハンビョウ村



ピエチャウ村



ミンガフ村



ミーヤタ村



ダーカイン村



クートセイ村(完成まで9割進捗)

2 PTA活動強化支援事業

標記事業は学校建設事業第1期終了時におこなった本事業についての参加型評価によるもので、PTAによる学校の維持管理が不十分という結果を受け、第2期よりPTAの研修を開始しました。内容は、PTAによる校舎の保守管理の意識向上と管理能力の強化を旨として、PTAの役割、手洗いなどの衛生知識、ごみ処理などを学ぶ研修です。3年次は対象16校において各4回のPTA研修を計画していましたが、新型コロナウイルスの影響により8月以降活動は停止し、全体の72%が完了したところで、活動が中断となりました。



ミンガフ小学校のPTAメンバー



ウインピン小学校PTA研修

3 防災研修活動および教材林植林活動

堅牢な学校校舎の建設はサイクロン襲来時の避難所としての機能も持たせていますが、児童や親たちが十分に理解しておらず、校舎を災害時の避難先として認識していませんでした。そこで第2期2年次より児童とPTAを対象に3日間の防災研修とさらに教育環境の整備として教材林の植林と環境教育を追加して実施しています。ラカイン州では毎年のように洪水やサイクロンに見舞われることが多いため、身を守るための基礎知識や災害時の校舎利用方法、村のハザードマップや避難経路の作成などを学びました。22校での実施を予定していましたが、治安の悪化とコロナウイルスの影響から、学校が閉鎖されラカイン州政府から活動実施の許可が下りず、10校での実施にとどまり、児童やPTA、教師など295人が参加しました。4校での実施を予定していた教材林活動は、同じくコロナウイルスの影響を受け、3校においてのみ、教材林の植林活動を実施しました。



ヤチャンピン小学校で子どもたちと植林



防災授業に参加した生徒たち



ミョーマ小学校への図書寄贈



樹名板とともに植樹する



同じくヤチャンピン村の植樹



ニャウンゴン小学校で図書寄贈の説明



イエマフ小学校にて図書寄贈

## 2 ヤンゴン事務所の活動

### ミャンマー事業の要

ミャンマー各地に設置した4か所の事業所を統括し、職員の移動手続き、物資調達、会計の取りまとめなど総務・管理事務などサポート業務を進めました。またミャンマー中央政府への報告書提出、定期会合の手配、国際スタッフと専門家のビザ発給申請など、ミャンマー事業の窓口として東京本部と連携しながら、円滑な事業推進を図りました。カウンターパートの国境省国境地域開発少数民族局(NATALA)との定期会合に出席し、事業の進捗や問題点など検討しました。

また、ミャンマーには現地職員として約130名が在籍しており、彼らのスキルアップを目的に研修や事業検討会なども実施しています。なお日本財団資金による技術訓練学校事業の2020年以降の運営について、必要な資金と人材の目途をつけ、カウンターパートに引渡すことができました。



駐在員が撮影した「ロヒンギャ」の子どもたち(2020年9月撮影)



マウンドー周辺の田んぼの風景



マスクをしながら出勤しているヤンゴン事務所スタッフたち

### ミャンマー事業

#### ① 動型おもちゃ美術館事業

資金：東京おもちゃ美術館寄付金、自己資金

子ども向けの図書やおもちゃが乏しいミャンマー辺境地の子どもたちに、良質な本と遊具を提供することを目的に、東京おもちゃ美術館と協働して2016年から「Book & Toyライブラリー100」として、小学校に本とおもちゃをセットした本棚を寄贈する事業を進めてきました。2019年8月には目標の100校(僧院学院をふくむ)への設置を完了しました。後継事業として、日本の良質なおもちゃや伝統的な遊びを紹介しながら、親子が安心して遊べる空間を作ることを目的とした移動型おもちゃ美術館「Japan Toy Museum」を2019年に開始しました。2020年には1月23日から26日まで東京おもちゃ美術館主催のスタディツアー参加者8名を受け入れ、25日、26日は人民公園内のヤンゴンギャラリーにて第4回目の移動型おもちゃ美術館「Japan Toy Museum」を開催しました。それ以降は、新型コロナウイルスの影響もあり、次の活動計画の見通しが立っていません。



おもちゃを運び込むヤンゴンスタッフたち



第4回Japan Toy Museum



会場は今回もヤンゴンギャラリー



少し年齢が上の子どもたちにはコマが人気



一人で熱心に遊んでいます!

#### ② National Water Service Group (NWSG) 支援

資金：水基金ほか

中央乾燥地域での水供給事業にかかわった現地職員が中心になって立ちあげた井戸供給グループについて、BAJは資金、営業、運営管理の支援を実施してきました。2017年にBAJのOBスタッフによるNWSGが設立されて以来、自立に向け支援を続けてきましたが、年々BAJからのサポートが少なくなっても活動できるようになってきています。また2021年も引き続きBAJによるサポートを継続し、自立を促していきます。



深井戸の揚水管を交換して修繕します



NWSG自身が購入したクレーン車!

2020/5/2 18:41

có bước tới đài vinh quang để sánh vai với các cường quốc năm châu được hay không, chính là nhờ một phần lớn ở công học tập của các em.” “Trích thư Bác Hồ gửi học sinh”



## 海外支援活動 ベトナムでの活動

BAJは5年間継続した「フエ市零細農家向け農畜産業経営強化支援事業」(JICA草の根技術協力)を19年に終了し、2020年からは、東京事務所と頻りに連絡をとりながら、現地職員による運営が始まりました。BAJはベトナム事業全体のテーマを「子どもの教育とエコツーリズム」とし、トアディエンフエ省の事業承認を取得しました。

2月半ばから新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、環境教育活動は学校の休校により断続的に中断しましたが、9月以降は再開することができました。貧困農家支援で開設した有機野菜の直売所は、生活必需品の活動として営業規制の対象とならず、引き続き営業を継続できましたが、売上は例年を下廻りました。そのため加工品の開発や仕入れ先を開発して品ぞろえを増やすなどを進め、またSNSを使った宣伝広報で、売上げを伸ばす工夫をしました。

コロナ禍の影響で、生産者訪問イベントやエコツーリズムの活動は自粛となり、年内に予定していた日本からのスタディーツアーも中止となりました。東京事務所やベトナム事業



サポートチームとのスカイプ会議を頻りに開催し、オンライン授業のアイデアや、SNSの運用改善、広報映像の作成などを検討し、企業向けプロポーザルの準備を進めました。

10月に入ってベトナム中部に豪雨や複数の台風が襲来し、記録的な洪水・浸水被害を受けました。このためフエ市当局からの要請を受け、緊急支援活動として、東京事務所では救援募金を開始し、また現地事務所では被害を受けた農家に対して救援金の配布をおこないました。また学校に対しては防災用品や図書などを寄贈しました。

新型コロナウイルスへの対応や浸水被害救援などの対応で、活動の中止や制限を受けることがありましたが、年間を通じて活動の実施体制の幅を広げることができました。

## 1 子どもの支援

### ①環境教育事業

資金：輝けアジアの子ども基金、その他ベトナム寄付

フエ市内の小中学校が実施している「生きる力を伸ばすための活動」授業の一部として、2つの中学校と1つの小学校の計4クラスで、BAJ職員による環境教育の出張授業を実施しました。内容は「ペットボトルを使ったモヤシ栽培」「新鮮な食物とそうでない食物」「再生可能資源」「枯渇性資源」「かれ葉を使った図工」「洪水防災授業」などでした。5月から12月まで延べ24回にわたり実施しまし



葉っぱを使って絵を描こう!



プランターで野菜を育てよう!

学校名	対象	クラス数	回数	延べ人数
トゥイスワン小学校	6・7年生	1	12	287
ファムクアンアイ中学校	6~9年生	1	5	137
ランモンクアン中学校	4・5年生	2	7	198
計		4	24	622



ペットボトルを再利用



新鮮な果物と野菜の特徴とは?

休校中の1~3月はコロナ化で実施できませんでしたが、各学校長に聞き取り調査をおこない、情報を共有しました。またオンライン授業準備としてFacebookで「ミニ顕微鏡の使い方」や子どもたちの成果物の映像を定期的に投稿しました。

7月末にコロナ感染者が見つかり、夏休みの活動は中止となりましたが、オンライン授業を実施しました。9月の授業再開後は、楽しく学ぶための工夫としてゲームやクイズを取り入れました。

9月末、フエ市内のファンティフン中学校から、BAJに対し奨学金および環境教育活動の要請があり、実施のためには人民委員会やフエ市外務局の確認が必要となり、調整を進めています。



コロナに負けずオンラインでも授業

### ②教育支援事業

資金：輝けアジアの子ども基金

環境教育を実施している学校を対象に、学校から推薦された児童生徒55名に、合計130,000,000ドン(VND)の奨学金を授与しました。

地域名	給付した学年	人数	授与額/人(VND)
トゥイスワン小学校	小学1~5年	20名	300,000
ランモンクアン中学校	中学1~4年	20名	500,000
ファムクアンアイ中学校	中学1~4年	15名	500,000



奨学金の授与



ラムモンクアン中学



ファムクアンアイ中学

## 2 農家の支援

### 貧困農家支援

資金：自己資金

#### ① バイオガスダイジェスター(BD)の設置

BAJがこれまでに設置したBDについて、修理や維持管理のサポートを担当していますが、2020年度はとくにありませんでした。広報活動として8月、DB設置農家のタップさんの農場について、ベトナムFacebook・BAJページで動画による報告を掲載しました。



BD建設風景その1



BD建設風景その2



零細養豚農家をサポート

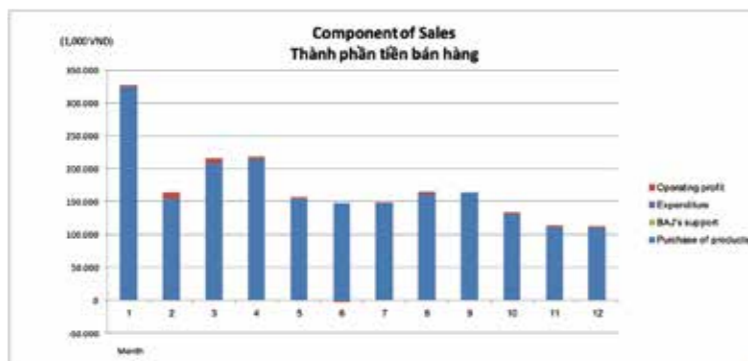
#### ② 農畜産物の販路拡大

2016年に開店したBAJ資金による農産物直売所2号店(フエ日本式農家の店)は、2月半ばより新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、売上高は多少減少しました。1日の来店人数は、以前は100人以上あったのが70人程度になりました。主力商品の豚肉は、市場価格が年間を通じて上昇傾向にあり、利益を取りづらくなっています。

10月には相次ぐ台風襲来と浸水被害を受け、大幅に売り上げは減少し、また出荷農家の収穫量も影響を受けましたが、12月末時点で回復傾向にあります。

オンライン販売を開始し、商品の多様化や無料配送サービスの導入、SNSによる広報宣伝など、販売実績を伸ばすための努力を継続しています。またBAJ直売所の実験畑であるトゥイビウ畑は、毎月2回の頻度で現地スタッフからの栽培や収穫の報告が東京本部に届いています。それによれば、10月の浸水被害により作物の収穫量が減少したものの、日本からの緊急救援金で収穫量は回復しつつあります。

2020年度の直売所年間売り上げの推移は以下の通りです。



直営畑のあずま屋



直営畑の管理を担当する若き農家フン氏



直売所店内

## 3 エコツーリズム事業(生産者訪問イベント)

資金：自己資金

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、エコツーリズムの活動はすべて中止となりました。8月に計画した子どもたちの夏休みイベントの生産者訪問も直前で中止となり、日本からの研修およびスタディーツアー3件の受入れも実施できませんでした。

## 4 浸水被害緊急支援

資金：緊急支援募金



10月中旬から下旬にかけてベトナム中部地域は、複数回にわたる台風の襲来により数十年に一度の大きな浸水・洪水被害を受け、多数の死者や行方不明者を出しました。東京事務所では「ベトナム・フエ市浸水被害緊急救援募金」を開始し、12月末時点で2,486,561円を集めることができました。とくにベトナムから来日している技能実習生とその受け入れ企業様からのご寄付など、ご協力いただいた皆様にあらためてお礼を申し上げます。また範囲を拡大し、被災農家支援のため、フエ市内の7箇村で調査を実施しています。

フエ事務所では10月26日から被害状況調査を開始し、以下の通り支援金などを配布しました。

実施日	対象者	内容
11月3日	被害農家タオ氏	救援金5,000,000VNDの支給
11月3日	被害農家ガー氏	救援金1,500,000VNDの支給
11月3日	被害農家スアン氏	救援金2,000,000VNDの支給
11月4日	被害農家タップ氏	救援金5,000,000VNDの支給
11月4日	被害農家ティン氏	救援金2,000,000VNDの支給
11月4日	直営畑の被害(フン氏)	救援金2,000,000VNDの支給
11月6日	被害農家デュイ氏	救援金1,500,000VNDの支給
11月6日	被害農家チュイエン氏	救援金3,000,000VNDの支給
11月18日	ファムクアンアイ中学校	物資支給(小型発電機、ライフジャケット50着、予備教科書及び参考書類138冊、保管用本棚)
12月3日	フエ市外務局	救援金10,000,000VNDの寄付(2月世帯支給予定)
12月4日	トゥイスワン小学校	物資支給(予備参考書その他ライフスキル図書等)
12月19日	ラムモンクアン中学校	物資支給(予備参考書その他ライフスキル図書等)
12月23日	11月支援実施農家	支援金給付後のモニタリング調査
12月31日	フォンディエン区フォンミ村	支援対象候補20世帯の調査



洪水被害で住居の壁が一部損壊しました



被害の大きかったファムクアンアイ中学に救命胴衣を寄贈(11月)



予備の教科書や参考書類を寄贈(11月)



農家デュイ氏へ救援金(11月)



農家スアン氏へ救援金(11月)



農家カー氏へ救援金(11月)



浸水被害を受けた豚小屋も復旧(12月デュイ氏宅)



収穫も復調(12月タップ氏畑)



被害のあったファムクアンアイ中学の校長先生へヒアリング(10月)

## 5 ボランティアサポートチーム

2019年6月から、東京事務所のベトナム事業ボランティアサポートチームは、スカイプを使って不定期にフエ事務所をつなぎ、活動に関する情報共有や、ベトナム事業で実施する授業内容やエコツーリズムについて内容の検討などを実施しました。

2020年の実施は延べ11回、参加者は毎回双方合わせて6~8名が参加しました。

実施日	内容
2月27日	フエ事務所からの要望整理
3月12日	自己紹介、広報映像の共有、スカイプ授業案の検討
4月2日	伝統的な遊び紹介、フエの遊びの資料共有、質疑
4月16日	二枚目の名刺チーム作成の映像作成ノウハウの共有
4月23日	二枚目の名刺チーム作成のFacebook運用アドバイスの共有
5月7日	「シェア畑」紹介 民間経営の市民農園
5月14日	オンライン折り紙教室のテスト
5月25日	伝統的な遊び紹介、フエの遊びの資料共有、質疑
5月28日	オンライン授業(折り紙教室)の具体的な提案
6月19日	「フードバンクとは」日本とベトナムのフードバンクの情報共有
8月31日	テーブルクロス助成金申請書検討(コロナ予防、調理実習)



学生のインターンやボランティアさんはフエ事務所と打合せをする機会が多くなりました。子どもたちの環境教育授業は日本の学生のアイデアが採用されやすいです。

2020年はフエの農家支援の活動とつなげた「食育」授業の企画が立ち上がりました。「調理実習をやろう」とインターン学生からのアイデアが出て、フエ事務所の現地スタッフたちも盛り上がりました。(2021年に実現)







## 東京本部の活動

1994年、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）から、ミャンマーの北西部ラカイン州で開始した難民帰還事業の事業実施団体（IP）としての協力要請がBAJにきました。突然のことであり、また現地に駐在員を置いた活動経験もない状態でしたが、ラカイン州の現地調査を経てミャンマーでの事業開始を決めました。ミャンマーは1988年9月のクーデターにより軍事政権が継続しており、その非正当性や閉鎖的・抑圧的な政策は、国際社会から大きな批判を呼び続け、そうしたミャンマーに対してNGOの態度は二つありました。

ひとつは国外から、国際的に圧力をかけて現状を変えようという立場です。もうひとつは、直接ミャンマー国内に入って、困難に直面しているミャンマーの人々と一緒に少しでも現状を改善しようとする活動で、それがBAJの立場でもあります。

ミャンマーでの活動を始めるために、ミャンマーに関わりの深い人や在日の民主活動家にも会い意見をいただきました。予想に反して、現地に入れるのであれば入って活動する立場もあるというご意見や、現地にいるだけでも意味があるといった、現地への暖かい思いのある意見が多かったのです。

2007年、ミャンマーはほぼ無血で民主政権に移管し、さまざまな問題に直面しながら約13年間、民主化への歩みを進めてきました。しかし今年2021年2月に国軍によるクーデターが起き、現在も緊迫した状況が続いていますが、BAJの立場は変わりません。100名以上の多民族からなるBAJの現地職員は、政治的・宗教的な立場にこだわらないBAJの活動理念を理解してくれています。BAJはこの立場を今後も守りたいと考えています。

前置きが長くなりましたが、2020年の東京本部の活動です。

中国武漢に出現した新型コロナウイルス（COVID-19）が、日本では2月中旬よりクルーズ船や屋形船などで感染が発覚し、4月には第1次緊急事態宣言が発出される事態となりました。その後「3密」を避けるため、ボランティア説明会、BAJカフェ、活動報告会などがすべて中止となり、また海外への渡航制限



により出張や専門家派遣、スタディーツアーなどの実施が困難となって現在に至っています。BAJはこの間も、オンラインで打合せをおこないながら現地の活動を進め、また国内では活動現場の様子をオンラインやSNSを使って伝えてきました。

ミャンマー事業では、ヤンゴンやラカイン州へ交代の駐在員を送ることができていません。例年対面でおこなってきたBAJ運営会議や日本人会議を中止とし、また時間短縮要請によりリモートワークやオンラインで事業を進めています。さらに理事会や報告会についてもオンラインによる実施に挑戦し、こちらは新たな可能性を感じています。

ベトナム事業は2019年から、スカイプで打合せをおこないながら現地職員が中心となって事業を進めています。また20年10月にベトナム中部に複数の台風が襲来し、数十年に一度という浸水被害で多くの犠牲者を出す事態となりました。東京では皆様に緊急救援の寄付をお願いしたところ、予想を上回る寄付が集まり、現地でも有効に活用させていただきました。

東京事業の柱である古着回収活動フルクルも、店頭での古着回収やイベントが中止となり、収益は前年を上回ることができませんでした。しかし定期的に古着を回収してお送りいただくグループや、古着の寄付からBAJへの直接寄付へとつながる支援者も増えています。さらにボランティアやインターン希望者も増えていますが、残念ながらコロナ禍では多数でおこなう作業の実施は難しくなっています。

寄付や助成金・補助金の獲得や、支援者の拡大について次ページ以降をご参照ください。

## 5 主な事業と資金

### ①助成金・補助金・委託金・寄付など

ミャンマーにおける大きな事業であった技術訓練学校運営事業が完了し、またコロナ禍で計画していた事業を立ち上げることが困難なこともあり、全体の事業資金は縮小傾向にあります。20年度、21年度と我慢の年となりますが、この間にBAJの今後の事業について検討することを進めていきます。

2020年度の事業として、以下の資金を調達しました。なお多数の個人からもBAJ事業へのご寄付をいただきましたが、個人情報保護の観点から掲載しておりません。

	案件・事業の名称	事業期間	機関・組織	金額
1	ミャンマーラカイン州／援ニーズ即応事業実施支援と車両等機械類の修理・整備	2020.01 } 2019.03	国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）／委託事業	1,633,763,740 MMK 38,597.04 USD
2	ミャンマーラカイン川／学校校舎建設とコミュニティ開発 第2期3年次	2019.09 } 2021.04	日本財団／委託事業	2,471,000.00 USD 実施中
3	ミャンマー・ヤンゴン／日本・東京 Japan Toy Museum（移動おもちゃ美術館）事業	2020.01 }（未定）	自己資金	1回150,000円 未実施
4	ミャンマー・ヤンゴン／日本東京 Book & Toyミニライブラリー	2020.01	熊谷組	140,000円
5	ミャンマー・ヤンゴン／日本東京 パアン技術訓練学校	2020.01	みなと自動車工業株式会社	85,019円
6	ミャンマー・エーヤワディー地方／ミャンマー学校マングローブ防風林植林事業	2020.01 } 2020.09	花王ハートポケット倶楽部・花王	400,000円 （次年度に延期）
7	ベトナム & 東京／子どもの教育支援、環境教育等	2005.04 } 2020.12	輝けアジアの子ども基金	912,000円（年）
8	ベトナム & 東京／零細農家支援事業（直売所運営、エコツーリズム等）	2014.05 } 2020.12	自己資金	800,000円（年）
9	ベトナム & 東京／フエ市浸水被害緊急支援	2020.10 } 2021.02	緊急募金＋株式会社ライフフーズ	2,486,561円 実施中
10	ミャンマー & 東京／夏募金		みなと自動車工業株式会社	176,284円
11	ミャンマー & 東京／冬募金		株式会社ピロタス	50,000円



## ②会費・寄付など

団体会員の加入は団体の組織内部の手続きが難しいうえに、国内の景気の影響を受けやすく、会員として獲得するのは困難となっています。一方個人会員の加入手続きは簡単ですが、会費は税金の控除対象となっておらず、メリットがあまり感じられないのが現状です。BAJの傾向として会員は減少していますが、控除対象となる寄付は徐々に増えています。

そのような状況のなかで2020年度に寄付や会費として事業資金をご支援いただいた団体は以下の通りでした。ありがとうございました。

	機関・団体名
ミャンマー	国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)、日本財団、花王ハートポケット倶楽部、ヤフー、花王、ロイヤリティマーケティング、熊谷組
ベトナム	輝けアジアの子ども基金、大木組、ライフフーズ、カトリック直方教会、田川カトリック教会
一般	日本開発サービス、日光物産、大木組、ゆたか保育園、ピロタス、ダイナックス、峰秀興業、ケア・センターやわらぎ、ブリッジャーズ、みなと自動車工業、テクナレッジ・ジャパン、国際ビジネスコンサルティング事業協同組合、宮館産業、キャピタル工業、国際航業、ソーワコンサルタント、ブックオフコーポレーション、ヤフー、Aphyu、ゴールデンバガン、トーハリ、セキュリアル、アダム

BAJへの寄付・会費・補助金・助成金(公的資金ではなく事業指定がある寄付)の経年推移は以下の通りです。

	2016	2017年	2018年	2019年	2020年
個人・団体会費	1,480,000	1,300,000	1,330,000	1,110,000	1,070,000
寄付	27,124,712	27,086,536	18,610,428	12,427,456	8,768,099
助成金	212,060,867	328,963,935	343,828,589	298,897,628	147,284,372
補助金	112,673,288	44,122,338	38,987,903	121,181,795	138,422,485
事業収益	10,109,152	5,807,733	3,253,691	2,825,097	2,688,455
その他収益	6,026,322	1,237,259	114,444	7,476,238	6,464,496
合計	369,474,341	408,517,801	406,125,055	443,918,214	304,697,907

(単位:円)

## ③募金・キャンペーンなど

2019年から20年にかけて、恒例の夏・冬募金を実施しました。また、10月にベトナム中部に複数回襲来した台風により、大きな被害を出したフエ市の浸水・洪水被害に対し、緊急救援募金をお願いしたところ、皆様から多くのご支援をいただきました。2021年にかけて主に被災した農家の復興支援金として活用しました。ありがとうございました。

募金の内容は以下の通りです。



	募金タイトル	期 間	金額(円)
1	冬募金：冬来たりなば春遠からじ	2019年11月～2020年2月末	575,348
2	夏募金：抱きあって走りまわって生きてきた	2020年7月～9月	1,038,284
3	冬募金：友だちがいるんだ	2020年11月～2021年2月末	619,500
4	ベトナム中部浸水・洪水被災緊急支援募金	2020年10月～12月末	2,486,561

## ④その他

平成に始まったネットによる寄付事業は、クラウドファンディングなど、より活動に密着した寄付サイトの出現で、具体的な活動発信力の弱さから集金率は減少傾向にあり、事業を停止するサイトが増えています。BAJも過去5か所のサイトから寄付を募っていましたが、2020年は2か所に減少しました。それでも2020年は「GIVE ONE」「Yahooボランティア」の両サイトで98,785円を集めました。

## 2 東京事業

NGOの資金調達として、市民など広い支援者からの寄付で運営することが望ましいのですが、BAJの活動資金としては、助成金・補助金・委託金が85%以上を占めており、課題となっています。また団体、個人を問わず会員の拡大も難しくなっており、「フルクル」「輝けアジアの子ども基金」「まるごとサポーター」などの事業を立ちあげ、東京本部管理部門の資金に充ててきました。とくに古着を寄付していただくフルクルは10年継続した結果、年間100万円以上の支援に拡大してきました。2020年にご協力いただいた個人は3000名以上、団体・グループは150社以上(複数回の協力は割愛)にのぼりました。また古着を送ってくださる方が、BAJへの直接寄付者になっていただくケースも増えました。集合店舗の販促手段としての古着回収イベントも定着してきました。しかし2020年4月以降はコロナ禍により、計画されていたイベントなどがすべて中止となりました。

古着のリサイクル活動は「脱炭素化」として大変有意義な取り組みです。今後も東京事業の柱として進めていきます。

### ①フルクル(古着回収事業)

古着リサイクルプログラム「フルクル」は、BAJを通じて集まった中古服について、日光物産に重量換算で買い取っていただき、その金額がBAJへの寄付になり、古着は途上国などで再利用される仕組みです。2011年から開始して、古着の送付登録者数は25,000名にのぼっています。また全国の社会福祉協議会に対し、フルクルのチラシを定期的に配布して広報につとめました。

集合店舗の販促事業として3月までに開催された中古服の引き取りイベントは3件でした。4月以降のイベントはコロナウイルス感染拡大のため、すべて中止となりました。

2014年から2020年の古着回収実績は以下の通りです。

\* 2015年に買取価格が10円/kgから15円/kgに改定

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
重量(kg)	67,178	50,971	43,604	74,554	90,443	79,289	66,018
金額(円)	713,713	776,720	701,209	1,202,575	1,459,988	1,285,063	1,084,011



滋賀県の大兼工務店さんは地元のこども園と一緒にフルクルに協力してくれました



こども園に設置されたフルクル専用回収BOX

### ②マンスリー・サポーター事業

毎月定額を引き落としで寄付していただくサポーター事業として、2004年からベトナムの子ども支援事業として「輝けアジアの子ども基金」、2006年からはBAJ事業全体を支援する「まるごとサポーター」を立ち上げ、緊急時の資金や管理部門で活用させていただきました。両事業合わせ、2020年度は平均で毎月24万円を調達することができました。

### ③不用品回収事業

(HAPPY BOOK、本棚お助け隊、お宝エイド)

BAJのホームページから直接申し込み、送料不要の古物回収事業では、HAPPY BOOKのみが5月で終了しましたが、20年度は120,860円を集めることができました。

### 3 広報事業

1995年に起きた阪神淡路大震災では、ボランティアが活躍して注目され、以降ボランティア活動はさまざまな場面で定着してきました。東京事務所ではボランティアやインターンを積極的に受け入れ、国際協力活動への理解を進める広報事業として進めてきました。また、支援者と現地をつなぐ事業としてスタディーツアーを実施してきました。学校行事としてスタディーツアーを取り入れる活動が増え、BAJも受け入れ実施を進めてきましたが、2020年は残念ながら新型コロナウイルス感染拡大で中止となりました。

広報事業としてBAJ通信や年次報告書の発行を例年通りに進めたほか、ホームページやメールマガジン、SNSを活用し、職員全員が発信するように進めました。また、報告会やイベントは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で4月以降中止となりましたが、オンラインによる実施により新規の参加者を集めることができました。同様に理事会や現地職員との定期会議をオンラインで進めました。

#### ①BAJ通信、年次報告書の発行

駐在員からの活動現地報告を主な内容とする「BAJ通信」を、3月、6月、10月(合併号)に発行し、とくに10月発行の137号では「コロナ時代の市民活動」を特集しました。毎号800部前後を、会員、支援者、関連団体などに発送し、発送作業は「BAJカフェ」としてボランティアを募集し、お茶とお菓子をいただきながら活動紹介をし、その後通信の封入作業を進めました。BAJカフェによるボランティア募集には定員以上の応募者が集まるようになりましたが、コロナ感染拡大以降は、発送業者に委託しています。



#### ②ホームページ、メールマガジン

ホームページでは記事内容の更新と、職員全員が執筆するように心がけました。また「BAJメルマガ」では、活動現地駐在員の報告記事を掲載し、「お知らせメルマガ」では直近の開催イベントやボランティア募集などの記事として、2週間に1度、交互に発信しました。購読数は4,800ほどになっています。



#### ③報告会、イベント、講演、講義、セミナー、研修など

BAJ主催の駐在員報告会や派遣専門家報告会、あるいは外部の依頼による講演・講義、職員のスキルアップのためのセミナーや研修など、主なものは以下の通りでした。



駒場東邦中学・高校で出張授業(2月)

日付	内容	担当	場所・手段
1月10日	派遣専門家・福島氏報告会	東京職員	東京事務所
1月12日	IGS-JISE市民環境フォーラム	大野	日比谷コンベンションH
1月17日	ミャンマー研究会	須藤	前田建設会議室
1月29日	二枚目の名刺・最終報告会	新石	東京事務所
2月12日	駒場東邦高校・出張講義	新石	駒場東邦高校
6月19日	JANICオンライン総会	新石	オンライン
8月8日	ドットJPオンラインイベント	新石	オンライン
8月21日	ベトナム・オンライン勉強会(ダオ氏)	新石	オンライン
10月15日	UNHCRプランニング会議	新石・今村・相葉	オンライン
10月26・30日	eCenter安全研修受講	相葉	オンライン
11月10・11日	YGN職員対象PC技術研修	大野	オンライン
11月11日	YGN職員対象情報管理技術研修	大野	オンライン
12月9日	月例会議	日本人職員	オンライン
12月12日	BAJ活動報告会・MGD事業報告	神永	オンライン
12月17日	JICA安全対策研修	相葉	オンライン
12月23・24・28日	YGN職員対象対象・PC技術研修	大野	オンライン

#### ④ネットワーク団体

行政機関、国際会議、NGO・NPO連合体が実施する会合に積極的に参加し、情報共有や意見交換をおこなっていました。

2020年度は、「二枚目の名刺」を通じてさまざまな企業から参加した5名と、ボランティア1名による「ベトナム事業支援チーム」が、スカイプを通して現地職員からの質問や課題に取組み、交流を深めました。1月には最終報告会で3か月間の成果を発表しました。

「東京おもちゃ美術館」と共同事業として実施してきた「Book&Toyライブラリー100」として2016年から100校

への図書とおもちゃの寄付を進め、2019年8月に目標を達成しました。

2020年は、引き続き1月にヤンゴン市内で「Japan Toy Museum」を開催し、日本からスタディーツアーとして8名が参加しました。その後はコロナ禍で開催を中止しています。



「二枚目の名刺」メンバーたちと記念撮影

#### ⑤ボランティア、インターンの受入れ



ボランティア希望者は増えており、コロナ禍の20年度は説明会をオンラインで実施し、20回以上の開催となり、実際の参加者は延べ70名以上でした。内容はBAJの活動紹介や実施時の注意事項などで、希望なども聞きます。事務所での作業だけでなく、英語やベトナム語の翻訳、チラシやリーフレットのデザインなどを手伝っていただきました。

また、ボランティアをグループにして、ベトナム事業の現地職員からあがってくる課題に取り組む「ベトナム事業支援サポートチーム」として3か月間実施し、最終報告会を実施しました。

インターン希望者については、面談を通して希望に沿うようにして受け入れました。またインターン終了後、契約職員として入職した人材もいました。20年度は6名のインターンを受入れています。

### 4 総務・管理

新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言により、活動自粛の結果、事業はさまざまな制約を受けて停滞気味となっています。このような状況のなかで、オンラインを活用した報告会では新規参加者の発掘があり、新たな活動形態が定着してきています。今後は、少ない人員で効果的な活動形態の構築を進めていきます。

本部事業では、ボランティアやインターンを受け入れ、さまざまな機会をとらえて国際協力への理解や共感をいただき、さらに支援へとつなげる努力を進めました。2020年のボランティアやインターンの参加者数は延べ70名以上となりました。残念ながら年末恒例の交流会は中止となりました。

### 5 海外事業支援

世界各国で新型コロナウイルス感染症が拡大し、ミャンマーやベトナムでの活動も大きな影響を受けています。まず現地職員の安全・安心のため、勤務体制の変更や事業計画の延期などの対策をおこなっています。とくに職員の出張や専門家派遣ができないため、オンラインで進めることになりましたが、不安定な通信状況などに左右されました。そのなか東京事務所が中心となって進める事業の状況は以下の通りでした。

#### ①エーヤワディーデルタ学校マングローブ防風林植林事業

現地活動を委託しているミャンマー村落NGOのGreen Environment Development Association(GEDA)とオンラインで打合せをおこないながら進めていますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により2020年度は事業の延期を決めています。着手できる見通しはたっていません。

#### ②Book & Toy ライブラリー100、Japan Toy Museum活動

良質な本や遊具を棚に収めて学校に寄贈するBook & Toy ライブラリー100は、3年かけて2019年8月に100校への寄贈を完了しました。引き続き東京おもちゃ美術館と協働して、に良質なおもちゃに実際に触れてもらうイベントJapan Toy Museumでは、2020年1月にヤンゴン市内でイベントを開催し、日本からの参加者は8名でした。

